

# 令和 8 年度 熊本県 英語教育改善プラン

## 目標

知識・技能の確実な定着を図ると共に、主体的に英語で自分の気持ちや考えを伝えることができる児童の育成

○「英語で自己紹介ができる」（「話すこと[発表]」）と回答した児童の割合（前年度より増加）

☒ 言語活動 
 ☒ 指導と評価の一体化 
 ☒ 教師の英語力・指導力 
 ☐ 校種間連携 
 ☐ ALTの参画 
 ☒ ICTの活用 
 ☐ AIの活用 
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

①県学力・学習状況調査の結果から、「英語で自己紹介ができる」の割合は増加傾向。

県学力・学習状況調査結果

小5 (R6:76.5% ➡ R7:77.1%)

小6 (R6:79.1% ➡ R7:83.3%)

### 未だ改善が必要な点

①「聞くこと」「話すこと」への慣れ親しみや定着に向けた指導。

②高学年においては、「読むこと」「書くこと」を含めた言語活動の充実に改善の余地がある。

## 2. 要因分析

①英語専科教員の配置拡充により、外国語活動を担当する教員の専門性が向上し、児童が英語を使って自分のことについてペアでやりとりする場面が増えたことが増加の一因と考えられる。

①コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を工夫して設定し、児童の「英語で伝えてみたい」という思いが高まっている。

①言語材料や既習事項を児童自らが意識して繰り返し用いるような言語活動の指導、特に、高学年の「聞くこと」「話すこと」においては、「できるようにする」ための中間指導や振り返りに改善の余地がある。

①②「聞くこと」「話すこと」で慣れ親しんだことを「読むこと」「書くこと」につなぐ言語活動の具体的なイメージが持てていない。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

①①②英語担当者の授業力向上に向けた研修の充実

・「英語授業づくりプロジェクト」

目的や場面、状況等をより練り上げた言語活動の在り方や「聞くこと」「話すこと」の定着（英語で自己紹介ができる力を含む）に向けた研修を英語専科や高学年担当に焦点化して実施。

・「わくわくサークル」（オンラインによる研修）

参加者自身の課題解決に向けて、スーパーティーチャーによる実践紹介などを実施。その中で、「聞くこと」「話すこと」で慣れ親しんだことを「読むこと」「書くこと」につなぐ言語活動の実践例を紹介。

①①②指導と評価の一体化の実現に向けた取組の更なる充実

・言語活動の充実に関する好事例の提供

「できるようにする」ための適切な中間指導や振り返り及び学習者用デジタル教科書・ICT機器を効果的に活用した授業実践例を収集し、情報提供を行うことで授業力向上につなげる。

■本県における一定の英語力を有する小学校教員の新規採用に係る取組

・小学校教諭等受考者における一定の英語力を有する者への加点点制度

・小学校教諭等受考者における青年海外協力隊等勤務経験者及び在外教育施設におけるプレ派遣教師勤務経験者への特別選考制度（考査内容の一部免除制度）

・中学校教諭等受考者に対する小学校教諭等の併願制度

※中学校英語を受考する際、第2希望として小学校を併願することができる

# 令和 8 年度 熊本県 英語教育改善プラン

**知識・技能の確実な定着を図り、主体的に英語で自分の気持ちや考えを伝えることができる生徒の育成**

## 目標

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：49.4%⇒R8：50.0%）  
○「英語で自己紹介ができる」（「話すこと[発表]」）と回答した生徒の割合（前年度より増加）

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他  
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

①英語で自己紹介ができる。

県学力・学習状況調査結果

中1（R6:76.4%⇒R7:79.5%）

中2（R6:69.0%⇒R7:76.2%）

②英語が「よく分かる」と回答した生徒の割合が増加。

県学力・学習状況調査結果

中1（R6:66.5%⇒R7:69.1%）

中2（R6:55.1%⇒R6:60.7%）

### 未だ改善が必要な点

①「知識・技能」の定着に課題が見られる。

県学力・学習状況調査結果

（中1：全国63.5 熊本県：55.8）

（中2：全国65.9 熊本県：52.0）

②「聞くこと」の領域が全国平均を大きく下回っている。

県学力・学習状況調査結果

（中1：全国71.9 熊本県：63.1）

（中2：全国73.0 熊本県：58.2）

## 2. 要因分析

①ICT活用やALTとの交流を通じ、目的意識を持った発信の機会が増え、有用感が高まった。

②小中連携による系統的な指導や、自己表現をする言語活動の充実が図られた。

①授業の中で目的・場面・状況を意識した言語活動や「できるようになるまで見届ける」評価・指導が不十分。

②「聞くこと」の言語活動を通して、概要や要点を捉えるなど、「思考・判断・表現」に係る指導が不十分であり、「聞くこと」と「話すこと（発表）」を統合した言語活動が不十分。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②英語担当者の授業力向上に向けた研修の充実

・「英語授業づくりプロジェクト」

目的・場面・状況を意識した言語活動を通して知識・技能の確実な定着を図り、生徒一人一人の達成状況を見取る授業改善と、地域ごとの課題の解決に焦点を当てた研修の実施。

・「わくわくサークル」（オンラインによる研修）

参加者自身の課題解決に向けて、スーパーティーチャーによる実践紹介、参加者同士の実践交流、学習者用デジタル教科書の活用例の提示などを実施。

①②英語による発信力強化に向けた取組・「AIの活用による英語教育強化事業」

・「話すこと」を重視した授業実践の効果を検証するため、モニタ校において「話すこと」を客観的に評価するスピーキングテストを実施。

・モデル校において、AI活用を実践し、教師による指導とAIとのベストミックスとなるモデルを構築するとともにその実践を共有。

①②指導と評価の一体化の実現に向けた取組の更なる充実

・MEXCBTをはじめとする評価問題の活用

MEXCBTや全学調の問題分析・活用により学習指導要領で求められている資質・能力を育成するための授業改善や評価問題作成等に生かす。

# 令和 8 年度 熊本県 英語教育改善プラン

英語を使って国内外で活躍し、他者と協働して対話を深めることのできるグローバル人材の育成

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合  
(R7実績： A2以上 42.7%、B1以上 19.5% ⇒R8目標： A2以上 55.0%、B1以上 25.0%)
- 英語担当教員の授業における英語使用状況  
(R7実績： 21.0% ⇒R8目標： 50.0%)

## 目標

- ☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他  
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2及びB1レベル相当以上を取得している生徒の割合が増加。  
○A2レベル相当以上  
(R6:26.0%⇒R7:30.1%)  
○B1レベル相当以上  
(R6:11.2%⇒R7:15.7%)
- ②英語の授業におけるICT機器を活用している学校の割合が増加。  
○発音や発話などの録音・録画  
(R6:48.9%⇒R7:68.1%)  
○人との文字でのやり取り:  
(R6:25.5%⇒R7:63.8%)

- ①授業において、教師が発話の50%以上を英語で行っている学校の割合が減少  
(R6:33.6%⇒R7:21.0%)
- ②CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合が減少  
(R6:16.4%⇒R7:12.5%)

### 2. 要因分析

- ①本県で例年実施している研修において共有した実践例が、授業において実践されたことにより、生徒の英語力が向上し、結果として資格試験合格にも繋がったと考えられる。
- ②パフォーマンステストのみならず、授業における個別最適な学びの場面でも、ICT活用が促進されたことが要因と考えられる。
- ①授業において、生徒の多様な学力背景に応じた英語による指導・支援が十分に行えていないことが一因として考えられる。
- ②言語活動の更なる充実が必要であるに加え、生徒の学びの段階に応じた、詳細な評価基準が不明確であることが一因と考えられる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

- ①①②②言語活動指導の更なる充実と適切な評価技術の向上
  - ・高等学校教育課程熊本県研究協議会  
授業での言語活動の充実のため、県研究指定校の教員及び前年度の先進校視察に参加した教員による言語活動の充実に向けた授業実践の発表及び共有を行う。
  - ・熊本県高等学校英語教員指導力向上研修会（年2回）  
「話すこと（やり取り）」「書くこと」の言語活動好事例及びその適切な評価方法の共有のため、外部講師を招き、言語活動の実践紹介とその評価に関する講義及びワークショップを実施する。
  - ・学校訪問  
英語教育実施状況調査の分析を基に抽出した学校等において、言語活動及び指導と評価の一体化に向けた指導・助言を行う。
  - ・CEFR A2レベル相当の英語力を有する生徒の割合の評価基準の確認  
「指導と評価の一体化」の補強を図るため、各学校にて定めた各学年のCEFR A2の目標値に対する評価基準を明確にし、評価のあり方について再確認する。
  - ・先進校視察  
授業におけるディスカッションを中心とした言語活動促進のため、英語教員が県外の先進校を視察する。
- ①①生徒の対話力・発信力の推進
  - ・生徒向けワークショップ  
グローバルリーダー育成のため、県指導教諭等を活用し、英語での対話力・交渉力を強化する対話型ワークショップを実施する。
  - ・熊本県州立モンタナ大学高校生派遣事業（9日間）  
生徒の対話力・発信力の教科及び実践のため、姉妹提携先の米国モンタナ州にある州立モンタナ大学併設語学学校へ高校生を派遣し、同校講師による講義受講・課題探究型活動及び大学生や地元州民との文化交流を実施する。

熊本県教育委員会

| 校種   | 指標内容                                 |            | 2023  |       | 2024  |      | 2025  |      | 2026  |     | 2027  |     |
|------|--------------------------------------|------------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-----|-------|-----|
|      |                                      |            | 目標値   | 達成値   | 目標値   | 達成値  | 目標値   | 達成値  | 目標値   | 達成値 | 目標値   | 達成値 |
| 高等学校 | ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)      |            | 50.0  | 43.1  | 48.0  | 42.4 | 52.0  | 42.7 | 55.0  |     | 60.0  |     |
|      | ①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)      |            | 15.0  | 17.7  | 20.0  | 16.8 | 23.0  | 19.5 | 25.0  |     | 30.0  |     |
|      | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)           |            | 75.0  | 47.1  | 55.0  | 47.3 | 60.0  |      | 65.0  |     | 70.0  |     |
|      | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%) |            | 100.0 | 49.5  | 60.0  | 47.3 | 60.0  |      | 65.0  |     | 70.0  |     |
|      | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況         | 設定(%)      | 100.0 | 100.0 | 100.0 |      | 100.0 |      | 100.0 |     | 100.0 |     |
|      |                                      | 公表(%)      | 100.0 | 73.1  | 80.0  |      | 90.0  |      | 95.0  |     | 100.0 |     |
|      |                                      | 達成状況の把握(%) | 100.0 | 56.7  | 65.0  |      | 75.0  |      | 85.0  |     | 95.0  |     |
|      | ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)  |            | 93.0  | 89.8  | 90.0  | 91.1 | 92.0  | 91.6 | 93.0  |     | 95.0  |     |
|      | ⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)  |            | 85.0  | 35.3  | 45.0  | 33.6 | 55.0  | 21.0 | 50.0  |     | 60.0  |     |

| 校種  | 指標内容                                 |            | 2023  |       | 2024  |      | 2025  |      | 2026  |     | 2027  |     |
|-----|--------------------------------------|------------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-----|-------|-----|
|     |                                      |            | 目標値   | 達成値   | 目標値   | 達成値  | 目標値   | 達成値  | 目標値   | 達成値 | 目標値   | 達成値 |
| 中学校 | ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)      |            | 50.0  | 46.6  | 50.0  | 40.5 | 50.0  | 49.4 | 50.0  |     | 60.0  |     |
|     | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)           |            | 95.0  | 78.8  | 84.3  |      | 89.8  |      | 95.3  |     | 100.0 |     |
|     | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%) |            | 100.0 | 97.5  | 100.0 |      | 100.0 |      | 100.0 |     | 100.0 |     |
|     | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況         | 設定(%)      | 100.0 | 100.0 | 100.0 |      | 100.0 |      | 100.0 |     | 100.0 |     |
|     |                                      | 公表(%)      | 100.0 | 85.8  | 100.0 |      | 100.0 |      | 100.0 |     | 100.0 |     |
|     |                                      | 達成状況の把握(%) | 100.0 | 98.3  | 100.0 |      | 100.0 |      | 100.0 |     | 100.0 |     |
|     | ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)  |            | 43.0  | 42.6  | 44.5  | 44.1 | 46.4  | 54.8 | 55.0  |     | 57.0  |     |
|     | ⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)  |            | 90.0  | 76.0  | 82.0  |      | 88.0  |      | 94.0  |     | 100.0 |     |

| 校種  | 指標内容                        |            | 2023 |      | 2024 |     | 2025 |     | 2026 |     | 2027 |     |
|-----|-----------------------------|------------|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
|     |                             |            | 目標値  | 達成値  | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |
| 小学校 | 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況 | 設定(%)      | 100  | 100  | 100  |     | 100  |     | 100  |     | 100  |     |
|     |                             | 公表(%)      | 100  | 80   | 100  |     | 100  |     | 100  |     | 100  |     |
|     |                             | 達成状況の把握(%) | 100  | 96.6 | 100  |     | 100  |     | 100  |     | 100  |     |